6・23総力戦へ突入せよ

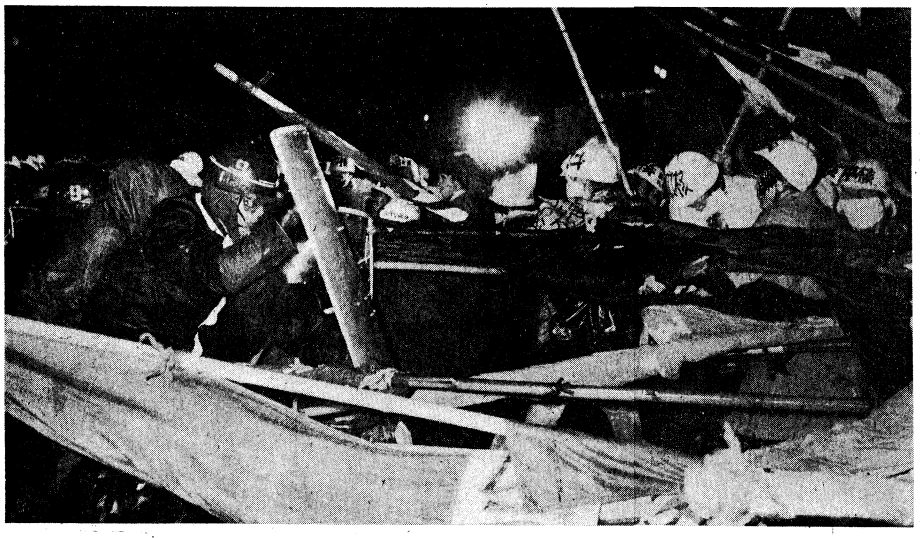

写真　六・二五闘争に向って意気の如く進撃した白ヘル部隊は三重県四日市近辺で徹底的に敵を粉砕し、東京周辺に迫った

再度全国から総結集を

六月決戦は機動のうち幕をあけた。六・二一並共同集会は日比谷野外音楽堂に満員をついで二万二千を結集し、安保決戦の大爆発を開始した。七・七年代の四大闘争の総括を通じ、不動の闘争をもかめ、この六・二一並共同集会の結成を通じ、四月決戦の成果を継承し、代々木公園に集結した二万二千の大隊を中心に、百万を生きるかぎモを貫徹し、革命的一揆がこの長年闘争を担う衛戦力を強つこと鮮明に見せつけた。この力は平一日に、機動隊を破りたちとられ、六・二一集会の直後、夕方から日比谷野外音楽堂でひらかれた「標準闘争法律・労学民集会」は日比谷から国会周辺、東京駅までの三キロを埋めつくされ、さらに全国各地での日間の連続的波状闘争へと発展している。

六・二四の大集会は「狂乱にある革命」への学生・民衆の期待であり、われわれにつきつけられていることがらに、特に、四月決戦の三・二三の「三・二三闘争」に反撃し、「日帝のアジア侵略・内乱をもって粉砕する」「沖縄奪還・新防衛・自衛隊の解体」「日帝の「沖縄返還」を粉砕せよ」「六・二四の大集会を全国の闘争へ発展せよ

12—14闘争の大高揚に立ち　6.15闘争、大爆発かちとる

6・15——それは誕生まもない日本の革命的左翼が安保阻止のために全人民の先頭にたって総決起し、国会南通用門から構内に突入し華美智子同志の生命をもかけて闘いぬいた日だ。それからちょうど十年目の6・15——まさに六月安保決戦のさなか、日米共同声明を粉砕し、日帝のアジア侵略を内乱に転化する怒りをこめて、三百の中核派は国会デモに決起した。6・12革共同大集会と6・14大統一行動の圧倒的高揚のうえに、白ヘル軍団のみが、断固として真正面から国会へ、むけての大衆的戦闘を闘いぬいたのである。

国会へ！白ヘルが総決起

機動隊の阻止線を粉砕

七千名が突撃デモを敢行

6・15闘争、圧倒的な白ヘル部隊を中心とする七千名の国会デモは、怒りのように機動隊の厚い防衛線を粉砕し、国会正門へ、国会南通用門へ、国会裏門へと、怒濤のごとく押しかけていった。「国会へ！国会へ！」と叫びつつ、国会周辺を埋めつくした数万の人びとも、この日、この時、この瞬間、白ヘル部隊の全一的な闘いに、熱い眼差しを注いでいた。

6・15闘争は、日米共同声明粉砕、沖縄返還協定粉砕、佐藤内閣打倒、安保粉砕、日帝のアジア侵略を内乱に転化する闘いとして、全国の学生・青年・労働者・市民の大統一戦線として、全国的に展開された。

六月十五日、全学連（全国学生自治会総連合）の中軍は、迂回して、国会南通用門へ、国会裏門へと、東大・全学連の学生を、つぎつぎと、国会周辺に集結させた。

六・一五、国会デモ構内突入闘争の中軍は、迂回して、国会南通用門へ、国会裏門へと、東大・全学連の学生を、つぎつぎと、国会周辺に集結させた。

六月十五日、全学連（全国学生自治会総連合）